

マネジメントからのメッセージ

102-14, 103-2



「事業を通じてSDGsに貢献する」ことこそ、私たちの考える「サステナビリティ」です。

ユニ・チャーム株式会社
執行役員 ESG本部長

上田 健次

私たちユニ・チャームは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献することを、当社のパーパスとしています。この「事業を通じてSDGsに貢献する」ことこそ、私たちの考える「サステナビリティ」です。

この想いをより具体的にすべく、ユニ・チャームグループ中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」を2020年10月に発表しました。

「Kyo-sei Life Vision 2030」の策定に際しては、マテリアリティ(重要課題)の特定に向けてアセスメントを実施し、多様なステークホルダーにご参加いただきました。アセスメント結果については、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」をはじめとする環境問題対応の基本的なフレームワークに沿って、さらに詳細な検討を進めました。

最終的に「私たちの健康を守る・支える」「社会の健康を守る・支える」「地球の健康を守る・支える」「ユニ・チャーム プリンシプル」という4つの分野にそれぞれ5つ、合計20の重要取り

組みテーマ、指標、目標を設定しました。

この20のテーマは、地球温暖化や海洋へのプラスチック流出といった環境問題、日本をはじめとした成熟国での少子高齢化、新興国における貧困等の社会課題、パートナー・アニマル(ペット)との共生などを包括し、SDGsの17の目標と169のターゲットの達成に貢献すると考えています。

以上のようなプロセスで策定した「Kyo-sei Life Vision 2030」を確実に推進するために、社長執行役員を委員長としたESG委員会において、進捗状況や課題等について討議し、全社を挙げて取り組んでいます。

2021年の取り組み事例を少しばかりご紹介します。まず、従来以上に「環境にやさしい」「社会にやさしい」商品を開発するために、新たに「SDGs Theme Guideline」を制定し「インプット10%マイナス、アウトプット10%プラス」「SDGs達成に貢献するテーマ」を商品開発時のゲート管理の指標のひとつとして追加し、より少ない資源によって、より多くの付加価値～一人

でも多くの人の悩みを解消し夢を実現することや、環境問題や社会課題の解決につながる～を創出する商品ラインナップの拡充に取り組んでいます。また、工場等で使用する電力の再生可能電力への切り替えも世界中の生産拠点で推進しています。

私たちユニ・チャームグループは、今後も全社員で「Kyo-sei Life Vision 2030」を着実に実行し、環境問題や社会課題の解決、地域社会への貢献を進めるとともに、GRIスタンダード、SASBスタンダードといった国際的な基準に沿ったESG情報開示の拡充等を通じて、お客様、株主・投資家、お取引先、社員とその家族、地域社会といった全てのステークホルダーに信頼していただける会社となることを目指しています。